

色彩教育の不易と流行

茂木 一司



日本色彩教育研究会の機関誌「カラーサークル」も6号になりました。年1回の研修会ではなかなか会員の皆様との交流が難しいなと感じたことから、オンラインで気楽に参加できる「色いろサロン」と連動して、本誌を発刊し始めました。会員情報コーナーはまだ数は少ないですが、普段見えない色彩教育者の顔が見えて楽しく拝見しています。また、サロンへの参加から興味を持ち、正会員になっていただいた方もいて、会の活性化にも役立っています。

会長をお引き受けしてから「色彩教育のこれから」をずっと考え続けています。「デジタルする色彩を図工美術科教育どう持ち込むのか」「(視覚)障害/アクセシビリティへの対応」などを多くの課題があり、本部研修会のテーマとして取り上げてきました。しかし、まだまだ色彩教育は幼児からお年寄りまですべてに対応できているわけではありません。教育には「不易」という言葉があります。不易とは、いくら世の中が変わっても変わらないもの、変えてはいけないもののことですが、色彩教育の場合にはそれは何なのか？昨年度から「色彩教育の基礎」を再考し、PCCS(日本色研表色体系)が持つ「色彩調和」の考え方を学び直し、不協和の現代社会を見つめ直す視点を考えたり、今年度はみんなが困っている0~5歳までの幼児のはじめての色の出会い方を考えたりしました。どれをとっても、難問です。これからの色彩教育の理念を共有し、実際の方法論を会員の皆様と協働できれば幸甚に思います。

幾年か前から、風景やモノがきらきらしてみえるように感じます。目は確実に鈍くなっているはずなのに心が直接光の煌めきをとらえる.....のか。昔大学生の時にデザインのN先生にこんなことを言われたのを思い出した.....「(光の真っ只中にいる)君たちにはまだ分からない。」

茂木 一司 (モギ カズジ)
日本色彩教育研究会 会長

「色いろサロン」にご登壇いただいた方々 (第4回、第5回)



昆野照美さん (第4回)



笠原広一さん (第4回)



茂木克浩さん (第5回)

今回のトピック：北欧におけるジェンダーと色

本号では、前回に引き続きジェンダーと色の関係について取り上げます。今回は北欧におけるジェンダーと色について、都市デザイナーであり現在コペンハーゲンに在住されている、池田麻美さんにご執筆いただきました。色いろサロン第6回にもご登壇いただき、さらに詳しくご紹介いただける予定です。

北欧におけるジェンダーと色

池田 麻美

ジェンダーマイノリティへの理解が進むデンマークでは、コペンハーゲン・フェスティバルというLGBTに関する人権のお祭りの時期になると、企業のロゴや建物にレインボーカラーを取り入れた、セクシャルマイノリティへの理解を示します。レインボーカラーは、フェスティバル期間以外でも橋や店先、商品パッケージなど街の中で頻繁に見られ、街に色どりを加えています。一方、商業空間や、トイレ、服飾などでは、色相で性別を区別することがほとんど見られず、中性的な色が大半を占めています。

ジェンダーの問題に限らず、主に戦後から「人を大切にする」ことを政策として続けてきた社会的な背景や、デンマークでの生活で感じた日本との類似点、相違点を交えてお伝えします。また、ジェンダーギャップ指数が上位5位のうち4つを占める、他の北欧諸国の事例についても紹介します。



フェスティバル期間中レインボーカラーを取り入れたコンビニサイン



ジェンダーによる色差のないトイレサイン



プロフィール

池田 麻美 (イケダ アサミ)

株式会社カラープランニングセンターにて、色彩基準の作成等に関わる。
2020年よりデンマークに移り、オールボー大学で都市デザインの修士号を取得。
現在は首都コペンハーゲンにて建築事務所SquareOneで都市デザイナーとして、
Scaledenmarkで建築ガイドとして活動。

会員リレーコラム

「日本の伝統色」を伝える試み

古来から伝わる深みのある美しい「日本の伝統色」を次世代へ伝えることを実践する場として、異年齢の子どもたちが「創作する」ことを通じ「創造を楽しむ」講座を開催しています。やわらかいトーンの色調を知ること、和紙を触る体験をする機会を提供しています。児童の声を紹介すると「和紙でしかできない、ふんわりとやさしい感じの作品ができたなと思った」「しびい色と明るいおり紙の色をいっしょにはりつけるときれいな色でした」「和紙と折紙のそれぞれのよさがありました。」と2名の児童の感想から、和紙の質感を味わっていることがわかります。日本色研(株)「色和紙」を教材として採用し、日本人特有の色彩感覚にも通じる「日本の伝統色」を伝えていきたいと考えています。自然のなかにある色を由来とする色名が多い「日本の伝統色」。四季折々、花、草木、空、水、鳥、動物を由来とする日本の色を探してみませんか。



藤原 智子 (フジワラ トモコ)
こどもいろいろ研究所
修士 (芸術)

第5回『色いろサロン』を開催しました

2023年11月24日(金)に、第5回となる『色いろサロン』を開催しました。「性の多様性と色」をテーマとし、司会の名取初穂さん進行のもと、茂木克浩さんに『〇〇色で表す多様な性のあり方』についてお話しいただきました。

<参加者からのご感想(一部抜粋)>

『私は今大学で保育について学んでおり、性の多様性を学ぶ機会が保障されるべきというお話がとても興味深く感じました。』

『最後に先生がお話しされていた「フラッグが多いのはそれだけ自分はここには属さないと考える人が多い結果」という話が特に印象に残り、誰でも自分を自由に表現できる社会になるためにも性への理解が必要であると感じました。』

『SOGIEという言葉は初めて聞き、全ての人が当事者であり、一人ひとり多種多様な性のあり方を持っているということがとても印象に残りました。』

第6回は2月22日(木)20:00~21:00に開催予定です。ご登壇者の池田麻美さんがコペンハーゲンより参加してくださいませ。また、これまでと曜日が異なりますのでご注意ください。詳細は次ページに記載しています。たくさんのご参加、お待ちしております。

オンラインセッション 第6回『色いろサロン』のご案内

Color Circleで取り上げたトピックに関連するオンラインセッション『色いろサロン』の第6回を開催いたします。今回はテーマを『北欧におけるジェンダーと色』として、執筆者の方に話題提供をしていただきます。

『色いろサロン』では、登壇者の方へのご質問はもちろん、参加者同士で意見交換を行い、会員同士の交流ができる場にしていきたいと考えています。

視聴のみのご参加も大歓迎です。会員の皆様、並びに本研究会にご関心のある方々、奮ってご参加ください。

●日時：2024年2月22日（木）20：00～21：00

●方法：ZOOMによるリアルタイム配信

●オンライントークの会の流れ

・ Color Circle vol.06のトピック執筆者によるお話

池田麻美さん

名取初穂さん（司会）

・ トピックに関する質疑応答

・ 参加者全体、またはグループに分かれての意見交換

●参加費：

本研究会会員の方・・・無料

一般の方・・・1,000円

非会員のうち、学生で会員の紹介がある場合は無料

参加申込と同時にご入会いただいた場合は無料

●参加費のお振込先：

「郵便振替」「銀行振込」のいずれかよりお願いいたします。

郵便振替：00150-6-136277 色彩教育研究会

銀行振込：ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキュウ）店 当座 136277 色彩教育研究会

●お申し込み方法：以下のGoogle フォームからお申し込みください。

<https://forms.gle/eNPYkgKvFwnSoTFNA>

参加申込・参加費納入期限：2024年2月20日（火）

⇒2月21日（水）にZOOMのURLをお送りいたします。

※sikisaikyoiku@gmail.comからのメールが迷惑メールに分類されないよう、設定をお願いいたします。

※2月21日中にメールが届かない場合は、恐れ入りますが、事務局までご連絡をお願いいたします。

★こんなことを聞きたい、質問したい！等のご要望は、ぜひお申込フォームに記載をお願いいたします！

お問い合わせ先：日本色彩教育研究会事務局

ohuchi.hiroko@jcri.jp（大内） または sasaki.mikuko@jcri.jp（佐々木）



日本色彩教育研究会HP <http://shikikyo.jp/index.html>

発行人：茂木一司

製作：Color Circle編集委員会

（名取初穂、島田由紀子、手塚千尋、中島千絵、宮野周、大内啓子、佐々木三公子）

